稲　作　技　術　情　報 No.5

令和４年８月１９日
鳥取県産米改良協会

今後の管理のポイント

■いもち病、カメムシ防除の徹底

○穂いもちは発生後の防除が困難であるため穂ばらみ期及び穂揃い期の2回防除を徹底する。

○カメムシ防除は穂揃い期～乳熟期に行うとともに、斑点米カメムシ類が要防除水準を越える場合には直ちに防除を行うこと。

■完全落水は収穫5日前以降

○早期に落水すると玄米の品質が低下することから、収穫5日前までは完全落水しないように間断かん水を励行する。

■積算気温、青籾率を確認して適期に収穫

○例年、刈遅れによる品質低下が見られている。

○近日の気象経過及び1か月予報を基に、本年は以下の出穂後積算気温を目安に適期収穫を励行する。

・ひとめぼれ:910～1, 110℃(青籾率　14～21%)
・コシヒカリ　:890～1, 140℃(青籾率　10～25%)
・星空舞　　:標高300m未満　1,000～1,260℃(青籾率　0～10%)
　　標高300m以上　920～1,170℃(青籾率　0～12%)
・きぬむすめ:890～1, 100℃(青籾率　6～29%)

※早生品種の収穫適期は、昨年と同じ～2日程度早い予想:今後の気象条件で収穫適期は変動するため今後、農業試験場から8月下旬及び9月上旬に発表される最新の収穫適期予測を注視する。

Ⅰ　天気概況

1　天気予報

中国地方　１か月予報
（８月２０日から９月１９日までの天候見通し）

令和４年８月１８日
広島地方気象台発表

＜特に注意を要する事項＞
なし。

＜予想される向こう１か月の天候＞

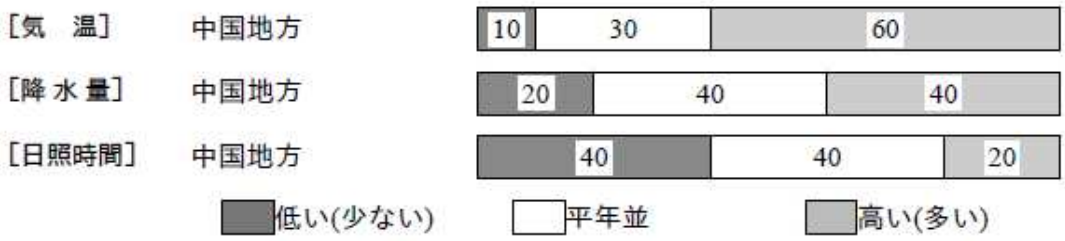
向こう１か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

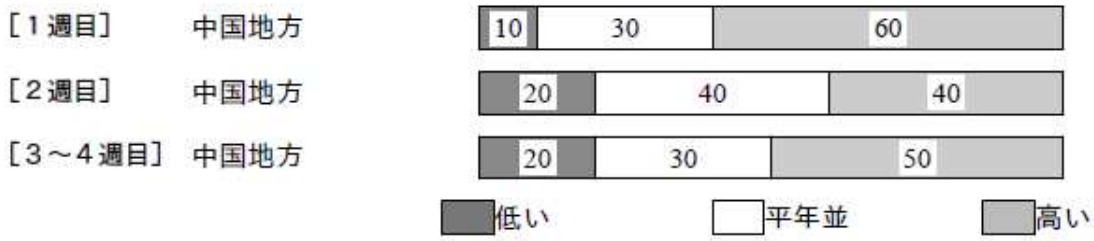
向こう１か月の平均気温は、高い確率６０％です。降水量は、平年並または多い確率ともに４０％です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに４０％です。

週別の気温は、１週目は、高い確率６０％です。２週目は、平年並または高い確率ともに４０％です。３～４週目は、高い確率５０％です。

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞



＜気温経過の各階級の確率（%）＞



＜予報の対象期間＞
1か月　：　8月20日（土）～　9月19日（月）
1週目　：　8月20日（土）～　8月26日（金）
2週目　：　8月27日（土）～　9月　2日（金）
3～4週目　：　9月　3日（土）～　9月16日（金）

2　気象経過

（鳥取）

時期	気温(℃)						日照時間		降水量	
	令和4年			平年差			4年	平年	4年	平年
	平均	最高	最低	平均	最高	最低	(hr)	比	(mm)	比
4上	11.8	18.6	5.3	0.5	1.6	-0.6	95.2	172	0.0	0
中	14.8	21.1	9.4	1.7	2.3	1.9	67	115	47.0	143
下	16.7	21.4	12.4	1.7	0.5	3.0	47.2	74	82.5	264
5上	15.7	22.7	9.2	-1.4	-0.2	-2.4	85.9	133	1.0	3
中	18.6	24.3	13.7	0.8	0.9	1.3	52.1	81	25.0	53
下	21.0	27.3	15.1	1.6	2.2	0.8	92.7	128	22.0	53
6上	20.2	26.3	15.0	-0.5	0.2	-1.0	76.3	124	30.0	101
中	22.6	27.9	18.4	0.6	1.0	0.4	63.3	121	15.0	32
下	28.3	33.4	23.6	4.9	5.6	3.8	74.8	187	42.5	61
7上	28.1	33.3	24.5	3.2	4.0	3.0	53.6	125	39.0	51
中	26	30.4	23.1	0	-0.2	0.7	30.5	62.1	187	248
下	28.4	33.4	24.3	0.9	0.8	0.7	69.3	92.9	13.5	36
8上	30	35.8	26.1	1.8	2.3	1.9	80.7	110.1	35.5	106

（茶屋）

時期	気温(℃)						日照時間		降水量	
	令和4年			平年差			4年	平年	4年	平年
	平均	最高	最低	平均	最高	最低	(hr)	比	(mm)	比
4上	7.7	16.8	-1.1	0.0	2.4	-2.2	102.3	180	0.0	0
中	10.9	18.6	3.9	1.3	2.2	1.3	68.3	117	22.5	53
下	13.4	20.1	7.1	1.7	1.7	2.5	51.7	83	100.0	276
5上	12.3	20.5	4.4	-1.8	-0.2	-3.1	84.3	132	0.5	1
中	14.8	20.9	8.9	0.1	-0.1	0.6	50.2	81	24.5	51
下	17.1	24.5	9.4	1.0	2.1	-0.5	90.7	131	7.5	16
6上	16.5	22.8	10.4	-0.9	-0.7	-1.3	66.5	116	48.5	141
中	19.1	24.5	14.3	0.2	0.2	0.2	49.6	101	15.5	26
下	24.2	29.1	19.6	3.8	3.9	3.2	63.1	191	26.5	26
7上	24.1	29.4	20	2.2	3.0	2.0	39.6	111	33.5	32
中	22.9	27.6	19.5	0.1	0	0.7	31.7	77.7	192.5	197
下	24	28.5	20.1	0.1	-0.6	0.5	36.3	57.8	13.5	27
8上	25.7	31.6	21.2	1.5	1.9	1.3	68	110.6	4.5	9

Ⅱ　生育概況

・現地ほ場の生育は概ね順調である。

・目立った病害虫の発生は見られないが、中山間地域の一部で穂いもちの発生が見られる。また、中西部の一部の地域でイナゴ類の発生が目立つ。

【農業試験場作況田】

○5 月 10 日田植

・ひとめぼれ:出穂期 7/22(平年比 1 日早)、茎数多く、草丈は平年並、葉色はやや濃い。

・コシヒカリ:出穂期 7/29(平年並)、茎数はやや少なく、草丈はやや長く、葉色は平年並。

○5 月 24 日田植

・コシヒカリ:出穂期　8/3　(平年並)、茎数はやや少なく、草丈、葉色は平年並。

・星空舞:出穂期　8/10(平年並)、茎数は多く、草丈はやや長く、葉色は平年並。

・きぬむすめ:出穂期 8/14(平年並)、茎数は少なく、草丈はやや短く、葉色は平年並。

令和４年度　水稲生育状況（農業試験場 作況田）

5月10日移植(4月15日播種)

調査項目		ひとめぼれ			コシヒカリ		
		本年	平年	差･比	本年	平年	差･比
生育ステージ	最高分げつ期	6月28日	6月26日	+2	6月28日	6月28日	0
	幼穂形成期	6月30日	7月1日	-1	7月4日	7月5日	-1
	出穂期	7月22日	7月23日	-1	7月29日	7月29日	0
苗乾物重(mg/本)	田植時	17.8	15.2	117	20.3	16.0	127
葉 齢 (葉)	田植時	3.4	3.3	+0.1	3.2	3.3	-0.1
	15日後	6.0	6.0	0.0	5.9	5.8	+0.1
	25日後	7.8	7.8	0.0	7.7	7.6	+0.1
	35日後	9.3	9.7	-0.4	9.3	9.5	-0.2
	45日後	10.8	10.9	-0.1	10.8	10.6	+0.2
	幼穂形成期	11.4	11.7	-0.3	12.0	11.9	+0.1
	出穂期(止葉葉位)	13.4	13.9	-0.5	13.8	13.8	0.0
茎 数 (本/㎡)	田植時	67	67	100	57	57	100
	15日後	80	70	114	58	60	97
	25日後	196	194	101	155	161	96
	35日後	366	355	103	288	310	93
	45日後	568	516	110	435	458	95
	幼穂形成期	576	514	112	423	458	92
草 丈 (cm)	田植時	9.2	10.8	85	10.8	11.7	92
	15日後	18.9	20.7	91	21.8	23.7	92
	25日後	21.3	23.6	90	25.6	27.3	94
	35日後	26.7	33.0	81	30.2	34.7	87
	45日後	43.8	46.9	93	48.9	47.8	102
	幼穂形成期	57.0	57.1	100	69.9	65.7	106
葉 色 (SPAD値)	田植時	24.5	26.2	-1.7	23.1	24.4	-1.3
	15日後	28.8	30.9	-2.1	26.8	29.0	-2.1
	25日後	38.4	37.3	+1.1	38.1	36.4	+1.7
	35日後	37.6	38.7	-1.1	34.9	36.7	-1.8
	45日後	38.3	37.2	+1.1	36.8	36.5	+0.3
	幼穂形成期	35.3	36.5	-1.2	31.5	34.2	-2.7
	出穂期	39.1	36.5	+2.6	37.3	38.6	-1.3

5月24日移植(5月4日播種)

調査項目		コシヒカリ			星空舞			きぬむすめ		
		本年	平年	差･比	本年	平年	差･比	本年	平年	差･比
生育ステージ	最高分げつ期	7月4日	7月5日	-1	7月4日	7月6日	-2	7月8日	7月5日	+3
	幼穂形成期	7月12日	7月12日	0	7月19日	7月19日	0	7月25日	7月25日	0
	出穂期	8月3日	8月3日	0	8月10日	8月10日	0	8月14日	8月14日	0
苗乾物重(mg/本)	田植時	16.1	15.9	101	16.0	15.9	101	15.9	15.2	105
葉 齢 (葉)	田植時	3.3	3.4	-0.1	3.2	3.4	-0.2	3.2	3.1	+0.1
	15日後	6.0	6.2	-0.2	6.2	6.3	-0.1	5.9	5.9	0.0
	25日後	8.1	8.1	0.0	8.2	8.2	0.0	8.1	7.8	+0.3
	35日後	10.1	10.2	-0.1	10.1	10.0	+0.1	10.2	10.0	+0.2
	45日後	11.4	11.3	+0.1	11.4	11.2	+0.2	11.6	11.2	+0.4
	幼穂形成期	11.9	11.8	+0.1	12.5	12.3	+0.2	13.3	12.8	+0.5
	出穂期(止葉葉位)	13.8	13.9	-0.1	14.5	14.4	+0.1	15.5	14.9	+0.6
茎 数 (本/㎡)	田植時	57	57	100	57	57	100	67	67	100
	15日後	62	81	77	63	95	66	77	105	73
	25日後	178	213	84	226	220	103	223	255	87
	35日後	332	404	82	475	446	107	424	470	90
	45日後	386	431	90	473	476	99	542	494	110
	幼穂形成期	372	405	92	509	445	114	392	450	87
草 丈 (cm)	田植時	14.4	12.1	119	13.7	11.8	116	13.2	12.8	103
	15日後	26.2	25.1	104	22.5	23.0	98	22.4	22.6	99
	25日後	30.5	30.2	101	27.5	28.5	96	27.0	28.7	94
	35日後	46.1	45.5	101	42.1	37.0	114	45.4	42.6	107
	45日後	66.6	64.8	103	62.9	55.9	113	68.1	64.6	105
	幼穂形成期	72.9	71.3	102	74.2	69.3	107	78.3	84.5	93
葉 色 (SPAD値)	田植時	25.9	25.8	+0.1	23.4	26.4	-3.0	25.1	24.9	+0.2
	15日後	28.1	33.4	-5.3	28.1	34.3	-6.2	28.0	32.5	-4.5
	25日後	38.9	36.1	+2.8	38.1	35.9	+2.2	39.7	35.9	+3.8
	35日後	35.0	37.3	-2.3	36.7	37.4	-0.7	36.1	37.3	-1.2
	45日後	33.2	36.5	-3.3	35.5	36.7	-1.2	35.1	37.1	-2.0
	幼穂形成期	30.8	34.9	-4.1	29.6	31.4	-1.8	28.7	29.6	-0.9
	出穂期	37.5	36.7	+1.2	36.5	34.8	+1.7	35.2	35.2	0.0

注）平年値は直近5年間の平均値（四捨五入）。ただし星空舞は2018年から栽培のため直近4年間の平均値。

Ⅲ　技術対策
1　病害虫防除
(1)いもち病

令和４年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・いもち病（No.６）

令和４年８月１０日
鳥取県病害虫防除所

１　情報の内容

中生品種が出穂を迎える時期となっている。８月９日現在、穂いもちの伝染源となる葉いもちの広域発生は認められていないが、穂いもちは発生後の防除が困難であることから、穂ばらみ期及び穂揃い期の予防防除を徹底する必要がある。

２　発生状況等

（１）８月２日現在、県全体の葉いもち発生ほ場率は８．７％（平年：１５．４％）と平年よりやや低い。一部の常発地等で多発生が認められているが、広域発生には至っていない。

（２）穂肥の施用により葉色が濃くなり、いもち病の感受性が高まっている。

（３）ブラスタムによる葉いもちの感染好適条件又は準感染好適条件は、８月７～９日に広域で出現した（表１）。

表１　ブラスタムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	青谷	岩井	智頭	倉吉	塩津	米子	境	茶屋
7/28	－	－	－	－	－	－	－	－	●
7/29	－	－	－	－	－	－	－	－	－
7/30	－	－	－	－	－	－	－	－	－
7/31	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8/1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8/2	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8/3	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8/4	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8/5	－	－	－	－	－	－	－	－	○
8/6	－	－	－	○	－	－	－	－	－
8/7	－	○	－	－	－	－	－	－	○
8/8	－	－	○	○	－	○	－	○	－
8/9	－	－	○	－	－	－	－	－	○

注）●感染好適日、○準感染好適日

（４）８月４日発表の向こう１ヶ月の気象予報によると、平年に比べ晴れの日が多く、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があると予想されている。今後は本病の発生に助長的な気象条件ではないが、山間地等の常発地や葉いもち多発生ほ場及びその周辺ほ場では、今後も注意が必要である。

３　防除上注意すべき事項

（１）葉いもちは穂いもちの伝染源となるため、葉いもちの進展が止まっていないほ場では、治療効果を有する粉剤、水和剤などを用いて葉いもち防除を行う。なお、上位葉で病斑が認められていなくても、下位葉の病斑で胞子形成してい

る場合があるため、ほ場を注意深く観察する。

（２）穂いもちは発生後の防除が困難であるため、穂ばらみ期及び穂揃い期の２回防除を徹底する。薬剤は、いもち病単剤またはこれらを含む混合剤の粉剤、水和剤などを用いる。なお、降雨が続く場合は、雨の止み間をみて防除を行う。この場合、散布後から降雨が３時間程度なければ、防除効果は十分にある。

（３）まだ出穂していないほ場で、穂いもち防除を目的として粒剤を使用する場合は、各薬剤の使用基準を確認して、出穂前の所定の時期に湛水散布する。この際、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を１週間程度とする。また、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める。

（４）上位葉における発病が多く、穂いもちの多発生が予想される場合は、傾穂期（穂揃い期の７～１０日後）の防除を追加する。

（５）「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「きぬむすめ」などのいもち病に弱い品種の栽培、窒素肥料の多施用、遅植えなどの条件では特に発生しやすい。

（６）平成３０年からストロビルリン系薬剤耐性菌の広域発生がみられなかった地域では、本系統薬剤の本田地上散布剤及びヘリ防除剤の再使用が可能である。ただし、耐性菌の再発生を防ぐために、本系統薬剤の同一年における連用と採種ほ場およびその周辺ほ場における使用を控える。

（７）防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。特に、葉いもちの追加防除を行ったほ場では、農薬の総使用回数を超えないよう十分注意して穂いもちの防除薬剤を選択する。

（2）斑点米カメムシ類

令和４年度病害虫発生予察指導情報
対象病害虫：斑点米カメムシ類（No. １）

令和４年８月５日
鳥取県病害虫防除所

１　情報の内容

７月２４日～８月２日に、穂揃い期を迎えた水田（早植え、極早生品種等）においてすくい取り調査を実施した結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は８１．４％であった。

このため、斑点米被害の発生が懸念されることから、穂揃い期～乳熟初期の防除を徹底する必要がある。

２　発生状況

（１）８月２日現在、水田内では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどの発生が認められる。発生ほ場率は８１．４％（平年：９１．０％）、要防除水準を超えているほ場率は５８．１％（平年：６３．０％）、平均すくい取り虫数は１８．４頭（捕虫網２５往復５０回振り虫数、平年：２１．４頭）と平年並～やや少ない発生であった。

（２）水田内でのカメムシ類の発生状況は、ほ場間差及び地域間差が大きく、水田周辺に出穂したイネ科雑草が多いほ場や地域での発生が多い。

（３）７月１５日現在、水田周辺のイネ科雑草では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどの発生が認められている。特にアカスジカスミカメは、一部の地域において、高密度（５往復１０回振りすくいとり虫数５００頭以上）で発生している。

３　防除上注意すべき事項

（１）水田周辺の雑草地、畦畔などのイネ科雑草はカメムシ類の発生源となるので、適正な管理を行う。

ア　早生品種等、７月下旬～８月上旬に出穂するほ場

出穂２０日前頃に畦畔などの草刈りを行ったほ場では、再生したイネ科雑草が出穂する前に再度草刈りを行うと、カメムシ類の密度が更に低下する。一方、出穂２０日前頃に畦畔などの草刈りを行っていないほ場では、穂揃い期から乳熟期に草刈りを行い、その直後に、水田に追い込まれたカメムシ類を粉剤、水和剤などで防除する。

イ　遅植えほ場、中生品種等、８月中旬に出穂するほ場

イネの出穂２０日前頃及び出穂期にイネ科雑草の草刈りを行って、カメムシ類の発生源を少なくする。ただし、イネの出穂期以降に、穂を付けたイネ科雑草の草刈りを行うと、穂で増殖したカメムシ類を水田に追い込むので、出穂期の草刈りはイネ科雑草が穂を付ける前に行う。

（２）水田内で穂をつけたヒエ類はカメムシ類の発生を助長するので、見つけ次第抜き取る。

（３）薬剤防除を適期に行う。

ア　粉剤、水和剤などを使用する場合

薬剤防除は穂揃い期から乳熟初期に行い、その後も発生が多い場合は７～１０日間隔で１～２回の追加防除を行う。防除は地域一斉で行うと効果が高い。なお、出穂前散布の防除効果は期待できない。

イ　粒剤を使用する場合

アカスジカスミカメが優占する水田では、粒剤による防除も可能である。病害虫防除指針などを参考にして、各薬剤の散布適期に湛水散布を行う（湛水散布にあたっては、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項などを確認するとともに、止水期間を７日間とし、また、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める）。なお、散布後も発生が多い場合は粉剤、水和剤などで追加防除を行う。

２ 水管理

（1）早期落水により白濁粒が増加

・早期落水すると白濁粒が増加し、玄米品質が低下する。
・地耐力を高めるためには、間断かん水の干す期間を長めにとり、徐々に土を固めていくこと。特に中干しが不十分なほ場で、雨水に頼った早期落水は絶対に行わないこと。

（2）中生品種では特に早期落水に注意

・高温年でも安定して品質が良い「きぬむすめ」でも早期落水により白濁粒が増加した事例が過去に確認されている。

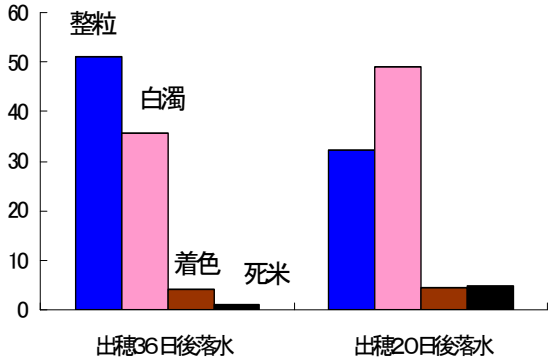


図 落水時期の違いによる玄米品質（1995、鳥取農試）

※（ビニールハウスで高温条件を作出）

・早生品種にあわせた慣行水利による落水の結果、中生品種が早期落水となり、これによる品質低下事例が各地で見られている。地域で話し合いを行い、きぬむすめのステージにあわせた落水時期の設定を行うことが品質向上のためには特に重要である。
・中生品種は、現在登熟初期に当たっており、特に注意して間断かん水を励行すること。

3 適期収穫

（1）本年の適期収穫の目安

大部分の水稲が幼形期～出穂期となる7月1日～8月9日の平均気温と平年値データと比較し、本年は、高温年の平成28年と同様に0.5℃以上となっており、また、気象庁の1カ月予報も今後平均気温が高い予報となっていることから、高温年と判定した。

主要品種ごとの収穫適期目安　　平成28年12月作成

品種	8～10月の気象区分	出穂後日数（日）	出穂後積算気温(℃)	青籾率（%）	籾水分（%）
コシヒカリ	通常年	－	1000	10.0	－
	低温年	38～46	910～1070	16～18	25～26
	高温年	33～42	890～1,140	10～25	23～26
ひとめぼれ	通常年	－	1,000	5～10	－
	低温年	43～45	1000～1,110	10～21	24～27
	高温年	38～42	910～1,110	14～21	24～28
きぬむすめ	通常年	40～45	1,050～1,150	5～13	22～24
	低温年	47～53	1,010～1,100	9～22	25

注1）調査年次：2014～2016年、調査場所；現地（コシヒカリ：7、ひとめぼれ：4、きぬむすめ：4）、農試2ほ場（作況田、中6ほ場）
注2）8月～10月の鳥取市アメダスの旬別日平均気温の平年差により低温年（H26，27を平均）、高温年（H28）とした。
注3）収穫時期は現地・農試データより推定した。現地試験以降の刈取時形質の数値は、農試試験を採用した。

○収穫適期は前年並～やや早い予想
・8月16日時点では、**早生品種の収穫適期は、昨年と同じ～2日程度早い予想**である。

○収穫適期の目安
・本年度も2016年まで行った収穫適期試験（上表）を基に、農業試験場が作成した品種別、標高別の収穫適期（9・10ページ）を参考に収穫時期を判定し、**予測収穫適期の3～4日前**には収穫の準備を行うこと。
・また、時期が近づいたらほ場で上表を参考に青籾の割合を確認すること。

○青籾率
・青籾率が少々高い場合であっても気象条件によっては収穫適期を迎えている場合が少なくない。

○高温年の弊害
・高温年には、成熟後であっても種子呼吸により、種子に貯蔵されたデンプンが分解消費され、白濁粒が増加するため、収穫遅れによる品質低下が著しい。

○コシヒカリの対策
・ひとめぼれとコシヒカリでは、品種特性としてひとめぼれの方が刈り遅れによる品質低下が少ないことがわかっており、場合によってはコシヒカリを先に収穫することが有効である。
　例えば、コシヒカリが機械作業困難な程度に倒伏すると穀粒が高水分で推移し、穂発芽粒が発生、田面が乾燥しにくくなって更に収穫困難となるため、ひとめぼれより先にコシヒカリを収穫する。
・コシヒカリとひとめぼれは収穫適期が近く、同時進行で収穫する場面が多いため、迅速に収穫

乾燥作業を進めることで極力刈り遅れとならないように配慮する必要があり、コンタミを起こさないよう正確な作業が求められる。

〇産地全体の良質米生産

・上表の収穫適期目安は最適期間を示したものであり、コンバインの刈取、乾燥調製施設の受入能力を勘案しつつ、産地全体がこの期間に近い時期に収穫することが、産地の良質米生産に有効である。

（2）標高別出穂期別の収穫適期予測（8月18日農業試験場公表）

鳥取県産米改良協会
鳥取県農業試験場

出穂した時期別の収穫適期予測について （令和4年8月16日現在）

令和2年度から、鳥取県産米改良協会では、鳥取県農業試験場の研究成果を活用し、幼穂形成期、出穂期、収穫適期の予測について情報提供を行います。（毎週水曜日更新予定）
収穫適期の予測を行いますので、適期収穫を目指した収穫作業計画の参考として活用してください。

【情報を活用する上での注意点】
○高温年での収穫適期は、出穂後の日平均気温積算値を基に予測しており、ひとめぼれ 910～1110℃、コシヒカリ 890～1140℃となる月日です（R4年度水稲・大豆・小豆栽培指導指針）。星空舞は、標高300m未満の地域で1000～1260℃（有効積算気温620～770℃）、標高300m以上の地域で920～1170℃（有効積算気温510～620℃）となる月日です（R4年版「星空舞」栽培手帳）。
○アメダスの実測値及び1ヶ月予報値を基に各1kmメッシュの日平均気温を推定し、積算気温により収穫時期を予測しています。
○収穫適期予測に必要な気象データは、農研機構と㈱ライフビジネスウェザーが共同開発し、㈱ライフビジネスウェザーが提供するメッシュ農業気象システムの気象データを用いています。
○あくまでも目安であり、地形、かんがい水温などのほ場条件、水管理、施肥などの栽培条件等によっては誤差がでることがあります。
○収穫適期を予測したいほ場の標高は、地図などで検索してください。

【現時点での状況】
昨年同時期の予測結果と比較して、
○「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」は、昨年と同じ～2日程度早くなっています
※星空舞は、昨年と積算気温が異なるため、昨年との比較がありません。

ひとめぼれ予測収穫適期

（月/日）

標高	出穂期 （ほ場の約50%が出穂した日）				
	7/20	7/25	7/30	8/5	8/10
0～49m	8/22 ～ 8/29	8/27 ～ 9/3	9/1 ～ 9/12	9/8 ～ 9/17	9/14 ～ 9/24
50～99m	8/22 ～ 8/30	8/27 ～ 9/4	9/1 ～ 9/13	9/9 ～ 9/18	9/15 ～ 9/25
100～149m	8/23 ～ 8/31	8/28 ～ 9/5	9/2 ～ 9/14	9/9 ～ 9/19	9/16 ～ 9/26
150～199m	8/23 ～ 8/31	8/28 ～ 9/5	9/2 ～ 9/15	9/10 ～ 9/20	9/16 ～ 9/27
200～249m	8/23 ～ 9/1	8/29 ～ 9/6	9/3 ～ 9/15	9/10 ～ 9/20	9/17 ～ 9/28
250～299m	8/24 ～ 9/1	8/29 ～ 9/6	9/3 ～ 9/16	9/11 ～ 9/21	9/17 ～ 9/29
300～349m	8/24 ～ 9/2	8/30 ～ 9/7	9/4 ～ 9/17	9/11 ～ 9/22	9/18 ～ 9/29
350～399m	8/25 ～ 9/3	8/30 ～ 9/8	9/4 ～ 9/17	9/12 ～ 9/23	9/19 ～ 9/30

コシヒカリ予測収穫適期

（月/日）

標高	出穂期 （ほ場の約50%が出穂した日）				
	7/25	7/30	8/5	8/10	8/15
0～49m	8/26 ～ 9/4	8/31 ～ 9/10	9/7 ～ 9/18	9/13 ～ 9/25	9/20 ～ 10/3
50～99m	8/27 ～ 9/5	8/31 ～ 9/11	9/8 ～ 9/19	9/14 ～ 9/27	9/21 ～ 10/4
100～149m	8/27 ～ 9/6	9/1 ～ 9/12	9/9 ～ 9/20	9/15 ～ 9/28	9/22 ～ 10/5
150～199m	8/28 ～ 9/7	9/1 ～ 9/13	9/9 ～ 9/21	9/16 ～ 9/28	9/22 ～ 10/6
200～249m	8/28 ～ 9/7	9/2 ～ 9/14	9/10 ～ 9/22	9/16 ～ 9/29	9/23 ～ 10/7
250～299m	8/29 ～ 9/8	9/2 ～ 9/14	9/10 ～ 9/23	9/17 ～ 9/30	9/24 ～ 10/8
300～349m	8/29 ～ 9/9	9/3 ～ 9/15	9/11 ～ 9/24	9/17 ～ 10/1	—
350～399m	8/30 ～ 9/9	9/3 ～ 9/16	9/11 ～ 9/24	9/18 ～ 10/2	—

星空舞予測収穫適期

（月/日）

標高	出穂期（ほ場の約50%が出穂した日）				
	7/30	8/5	8/10	8/15	8/20
0～49m	9/4 ～ 9/16	9/12 ～ 9/24	9/18 ～ 10/1	9/25 ～ 10/9	10/7 ～ 10/17
50～99m	9/5 ～ 9/17	9/13 ～ 9/26	9/20 ～ 10/3	9/27 ～ 10/11	10/9 ～ 10/19
100～149m	9/6 ～ 9/18	9/14 ～ 9/27	9/20 ～ 10/4	9/27 ～ 10/12	10/10 ～ 10/21
150～199m	9/6 ～ 9/19	9/14 ～ 9/27	9/21 ～ 10/5	9/28 ～ 10/14	10/11 ～ 10/23
200～249m	9/7 ～ 9/20	9/15 ～ 9/28	9/22 ～ 10/6	9/29 ～ 10/15	—
250～299m	9/8 ～ 9/21	9/16 ～ 9/30	9/22 ～ 10/8	9/30 ～ 10/17	—
300～349m	9/5 ～ 9/17	9/12 ～ 9/25	9/19 ～ 10/3	9/26 ～ 10/12	—
350～399m	9/5 ～ 9/17	9/13 ～ 9/26	9/19 ～ 10/4	9/27 ～ 10/13	—

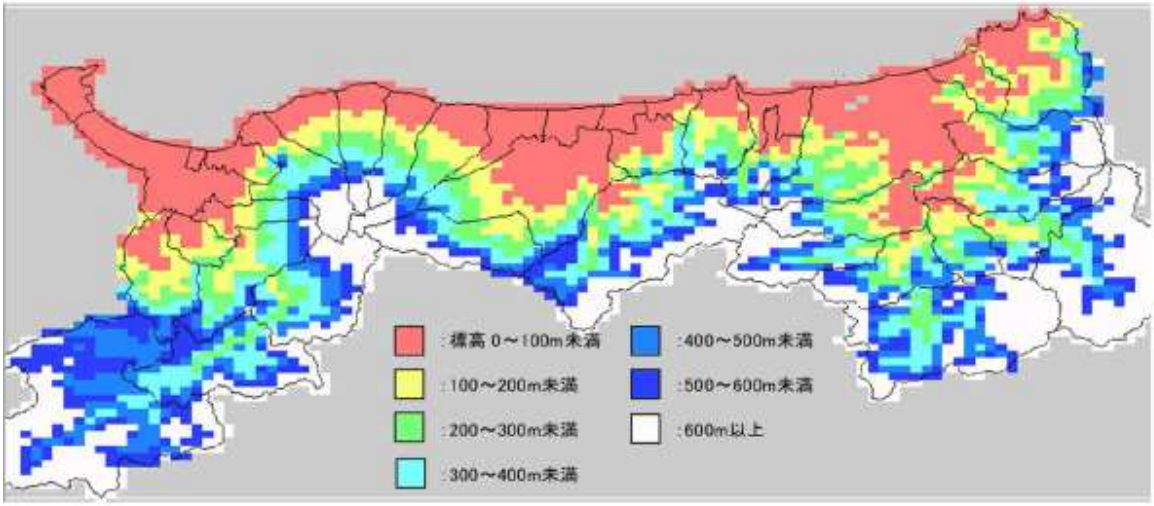
きぬむすめ予測収穫適期

（月/日）

標高	出穂期（ほ場の約50%が出穂した日）			
	8/10	8/15	8/20	8/25
0～49m	～	～	～	～
50～99m	～			～
100～149m	～			
150～199m	～	～	～	

８月下旬から予測を開始します

【参考】 鳥取県内における1kmメッシュの平均標高分布図



4 適正な収穫・乾燥・調製作業

（1）収　穫

・穂いもち、カメムシ類、内頴褐変病等病害虫の多発したほ場や倒伏等により品質が著しく劣る稲は仕分けして刈り取り、健全な籾に混ざらないよう乾燥も別に行う。

・倒伏の著しいほ場でのコンバイン刈り取り作業は、機械トラブルを避けるため、

①作業速度は低速

②刈取条数はやや控える

③倒伏した株に対し追い刈りとなるような行程を選択する

に留意する。

・刈取品種が変わる場合は、コンバインの清掃をしっかりと行い、混種が起こらないように細心の注意を払う。コンバインの取扱説明書清掃の手順に従い、エアーコンプレッサーや動力散粉機を利用して、扱き胴・各種網、受け、ラセン等の残留籾を完全排出させる。

（2）乾　燥

・収穫時の生籾水分は、周期的な降雨や倒伏により30％以上となることもあるので、乾燥作業には十分注意する。高水分籾は高温下では急速に変質するので、収穫後直ちに乾燥機に張り込み通風を行う。また、高水分籾は水分ムラが大きいので、25％程度まではなるべく常温で乾燥する。

籾　水　分（％）	28	27	26	25	24	23	22	21	20
放置可能時間(hr)	3	4	4	5	6	12	24	48	72

（注）三重農試資料

（3）調　製

・籾の水分測定は、勘に頼らないで正しく調整された水分計を用いて行う。試料は未熟粒を取り除いた整粒のみとし、乾燥中の籾は穀温補正を行って測定する。

・乾燥機の熱風温度、循環速度は機種所定の方法に従い、毎時乾減率は0.8％以下（遠赤外線乾燥機は1.0％以下）とする。特に良食味を確保する際には、先ず低温で水分ムラを均してからゆっくり時間をかけて乾燥する。

・仕上げ水分は15.0～15.5％の範囲とし、過乾燥にならないように注意する。

・過乾燥を防止するためには、乾燥機のタイマー設定を1～2時間控えめとし、以後こまめに水分測定しながら仕上げる。また、青未熟粒の割合に応じて玄米水分を決定し乾燥機を止める。

乾燥後の玄米水分の変化の目安

100粒中の青未熟粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の玄米水分
0～5粒	16．0～15．6％	0．5％程度乾く
6～10粒	15．5～15．1％	ほとんど変わらない
11粒以上	15．0％	0．5％程度戻る

（注）富山県米作改良対策本部資料

【参考１】適期収穫により、等級や食味の向上を目指しましょう

☆適期収穫は水分が高いとしてためらう例が見受けられます。
☆水分を気にするあまり刈り遅れにならないように産地全体として適期収穫を推進しましょう。

【等級や食味向上で最も効果的な対策は？】

白濁未熟粒の発生は、刈遅れになったとき、気温が高いとき、過剰に籾を着けたとき、栄養不足になったとき、日射量が不足したときに多くなることが知られています。今からの対策で最も効果的なものは、適期収穫です。

刈遅れとなった場合に、白濁未熟粒（特に基部未熟粒）や着色粒、胴割粒が増加し、加えて、充実度や玄米光沢が劣り、適期収穫の玄米と比べて明らかに検査等級の低下につながっています。

しかも、収穫が遅れると、食味も低下することが知られています。

鳥取県の低等級の大きな原因は刈り遅れであると考えます。この解決のため引き続き適期収穫への取り組みを推進しています。

JAでは、適期に収穫された籾の乾燥に対応できるよう施設稼働の準備を進めています。また、下図のように、収穫遅れは等級や食味が下がるという試験結果も出ており生産者の所得低下に直結します。

産地全体の品質食味向上や生産者の所得向上のために適期収穫を引き続き徹底しましょう。

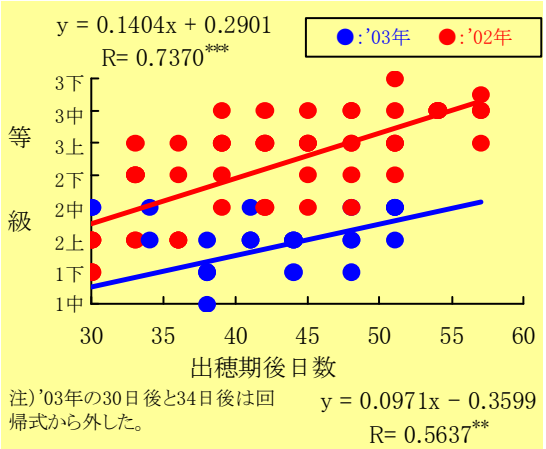


図　出穂期後日数と等級の関係
（2002、2003農業試験場、品種コシヒカリ）

表　コシヒカリの収穫期別食味成績

サンプル	外観	味	総合	ランキング
適期収穫	0.30	0.50	0.55	A相当
適期10日後	−0.25	0.10	0.10	A'相当

鳥取農試産米を穀物検定協会に試験依頼した。

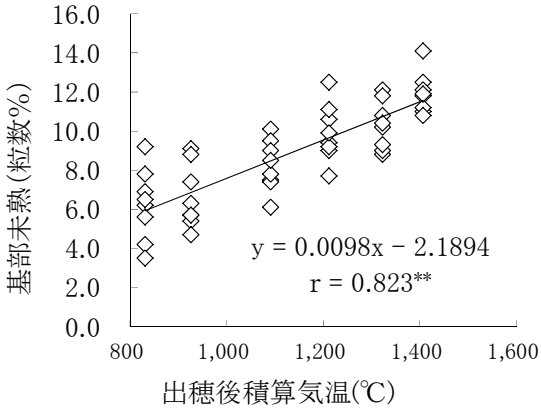


図.「コシヒカリ」の出穂後積算気温と基部未熟との関係
注1）調査年次：2011年、調査場所：鳥取農試
注2）n=48

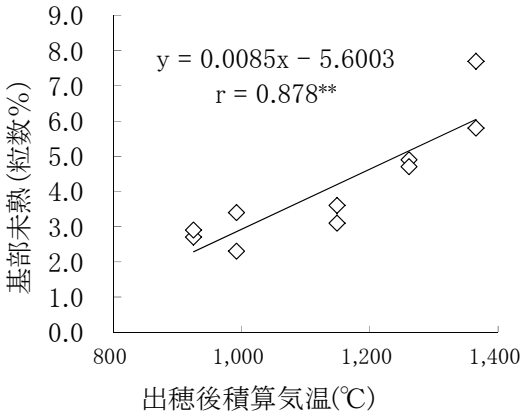
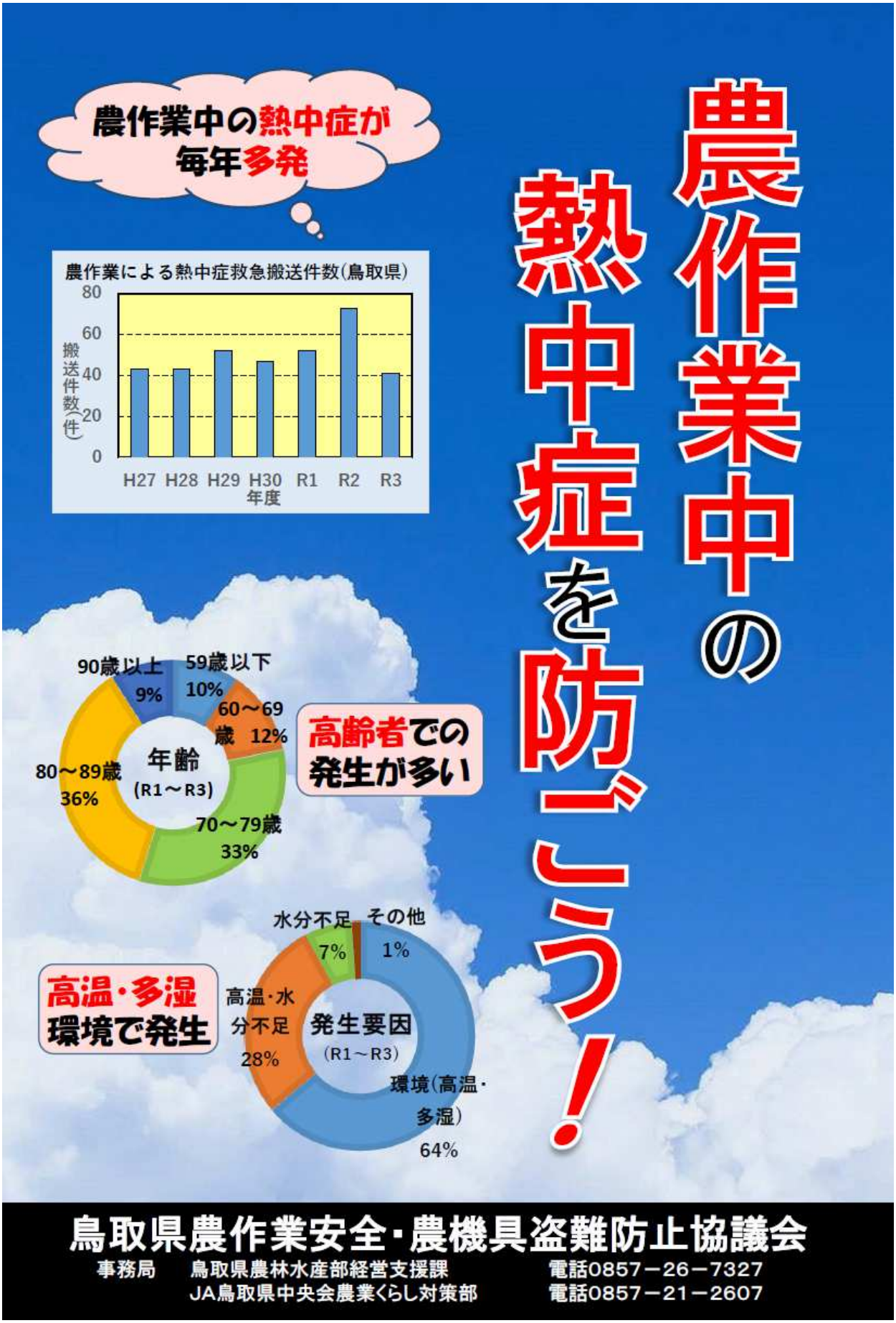


図.「きぬむすめ」の出穂後積算気温と基部未熟との関係
注1）調査年次：2013年、調査場所：鳥取農試
注2）n=10(坪40株・穂肥Ⅱ2kg)

【参考２】暑い日が続きます。引き続き熱中症対策を徹底しましょう。



農作業中の熱中症の予防管理

◎ 高温時の作業を避けましょう

- 最高気温30℃以上が予想される場合、熱中症警報が出されます。
- 県の「あんしんトリピーメール」や農林水産省の「MAFFアプリ」に登録しておくと、スマートフォンに情報が提供されます。

◎ こまめに休憩し、水分を補給しましょう

- 農作業には必ず水、氷(保冷剤)や濡れタオルなどを持参しましょう。
- 涼しい日陰等で休憩し、20分ごとに コップ1～2杯の水分と適宜塩分も補給しましょう。

◎ 涼しい服装で、適宜マスクを外しましょう

- 農作業の際は帽子を着用し、汗を吸いやすく乾きやすい素材の衣服を着用しましょう。
- 屋外やハウスで、人と十分な距離(2m以上)が確保できるときはマスクを外しましょう。

◎ 作業は2人以上で行いましょう

- 1人での作業はできるだけ避けましょう。
- 1人で作業する場合は、必ず、家族などに作業場所と帰宅予定時刻を伝えましょう。

◎ 日頃から健康管理を行いましょう

- 「おしっこカラーチャート」で自身のカラダの脱水状態を確認して、水分補給を行います。
- 睡眠不足、体調不良、前日などの飲酒、朝食の未摂取、発熱、下痢などによる脱水などは、熱中症の発症に影響を与えるおそれがあります。

熱中症に注意!!

おしっこカラーチャート

おしっこは、体の情報が盛り沢山!!

おしっこの色は何番ですか？

もしも3番以上の場合は、

「水分と塩分の補給」が必要です

尿の色		からだの状態と対応	
1		正常	水分補給は、十分です。 予防のために計画的に水分補給をしましょう
2			
3			脱水症への傾向があります。 補給の頻度を増やすこと
4		注意	
5			脱水症です。 水分補給が必要です。 口から補給できますか？
6			
7		危険	重度の脱水症です。 危険な状態です。 直ぐに病院へ
8			

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

協議会からのお知らせ

【農作業安全研修の実施希望について】

県内では毎年死亡事故を含め農作業事故が発生しています。特に死亡事故は家族にとどまらず、地域農業や法人経営に大きな影響を及ぼします。

このため、協議会では**集落営農組織、法人等を対象にした研修(対話型研修)の推進**を図り、生産者の安全意識の向上と農作業安全の取り組みを一層進めることとしました。

研修を希望される方、また詳しく知りたい方は県協議会事務局へお問い合わせください。

<対話型研修とは>

日頃危険と感じている作業・機械操作・施設等について、生産者自ら仲間と情報共有しながら、安全対策についても話し合いを行います。これを基にして組織や仲間での「安全対策」を定めて、みんなで一緒に取り組んでいただくきっかけとするものです。